



## 縁(ふち)にわ

左近山団地の最大の魅力は、豊かな外部環境であると考えた。隣棟間隔には十分なゆとりがあり、そこには多くの緑も見られる。統一感のあるシンプルな住棟が立ち並び、地形に富んだ多様な外部空間がそれを取り囲むのは団地ならではの風景で、居住地の魅力としてアピールできる点である。しかしながら現状は、その豊かな環境が十分に活かされていると見えない。特に、立ち入ると無言のメッセージを送る生け垣に囲われた芝地から、気まずい雰囲気広がっている。また、通りの景色も単調を極め、散歩する楽しみが失われていると感じられる。

本提案は、居住者と周囲を散歩する人の「見る・見られる」の関係が課題と捉え、その関係を再編集することで、魅力ある左近山団地とすることを目的とする。



課題と捉えた住棟と並行な道路と芝生



魅力的な溢れ出し



左近山団地の外環境を日々整える方々

## 全体計画と縁(ふち)にわの関係

提案において最も注目した場所は、住棟間の芝地と通路である。ここに大きく取られた隣棟間隔を十分に活かすため、半公共空間として「ふちにわ」を計画する。「ふちにわ」は、それ自体を使うひとにとっては自分のものであると同時に、はじめから誰かに見られること、あるいは誰かと共に使うことを前提とした半公共空間である。住棟間に配置された「ふちにわ」は、公共空間である通路と私的空間である住棟との間の緩衝領域となる。

現地見学で私たちが感じたこと

【目指すべきこと】

緑を活かした歩きやすい団地

【課題】

通りと住棟の関係を整える

【コンセプト】

径の記憶をつくるふちにわスペース

- 1) 眺めの変化を楽しめる外部空間づくり
- 2) 住民による景観づくりと子どもの自然学習
- 3) 隣を迎え入れるエントランスづくり

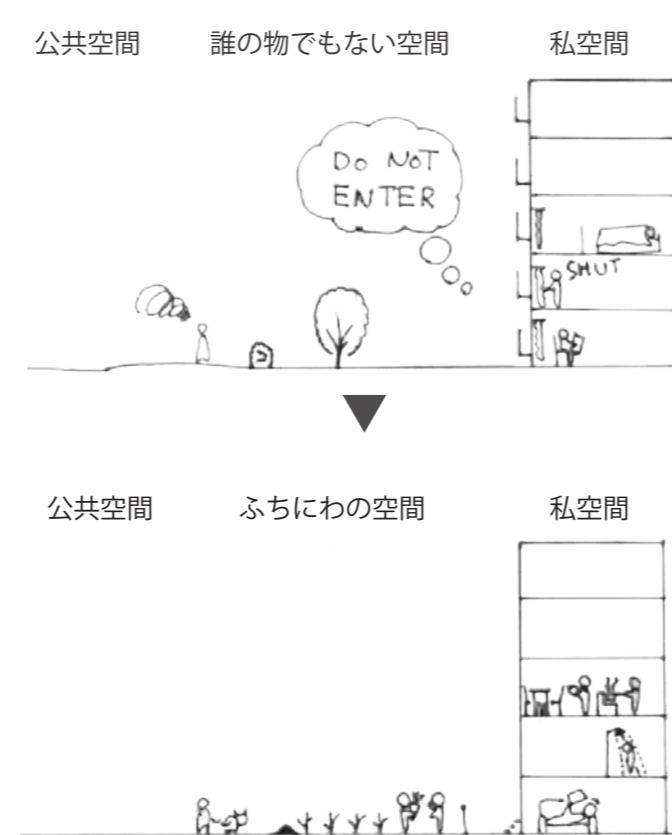
アクションプランで考えられていること

【ターゲット】

子育て世帯の流入促進

### 0. 課題に関する考え方

ゆとりある豊かな外部環境は、団地が本来持つ大きな利点であるが、現状では十分に活かされていない。私空間と公共空間のあいだに「ふちにわ」を設けることで、快適な外部環境を実現すると同時にこれまでの住民の生活が、子育て世代の生活を自ずと手助けすることを旨とする。



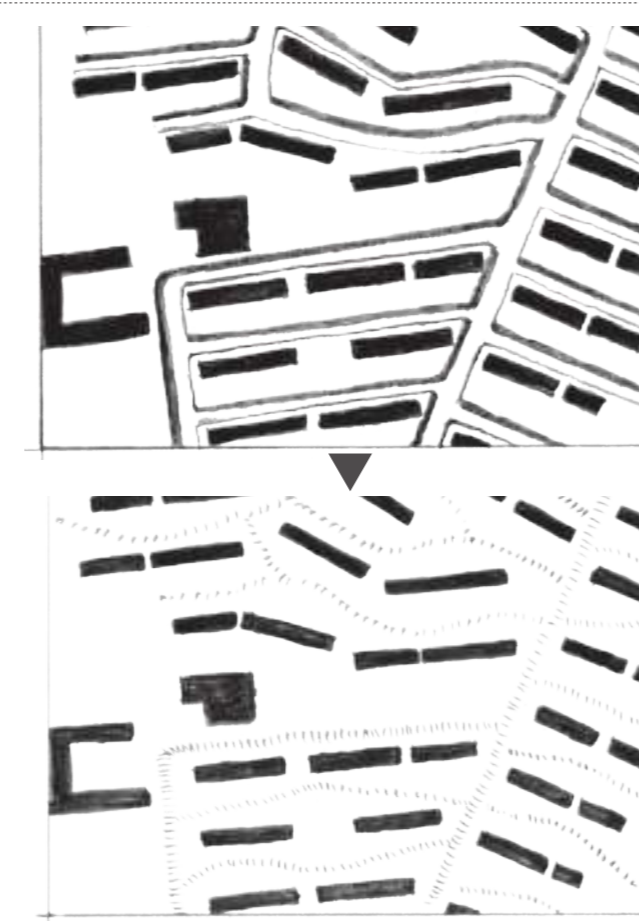
### 2. 住民の方々による景観作り

住民自らの活動により、まちの景観をつくりだす。34%の高齢化率は団地の持続性を考慮すると課題として捉えられるが、それは多くの知識や知恵を持つ資産でもある。そのような住民が次世代へ向けて自発的に行う景観づくりは、子どもの自然学習につながる。



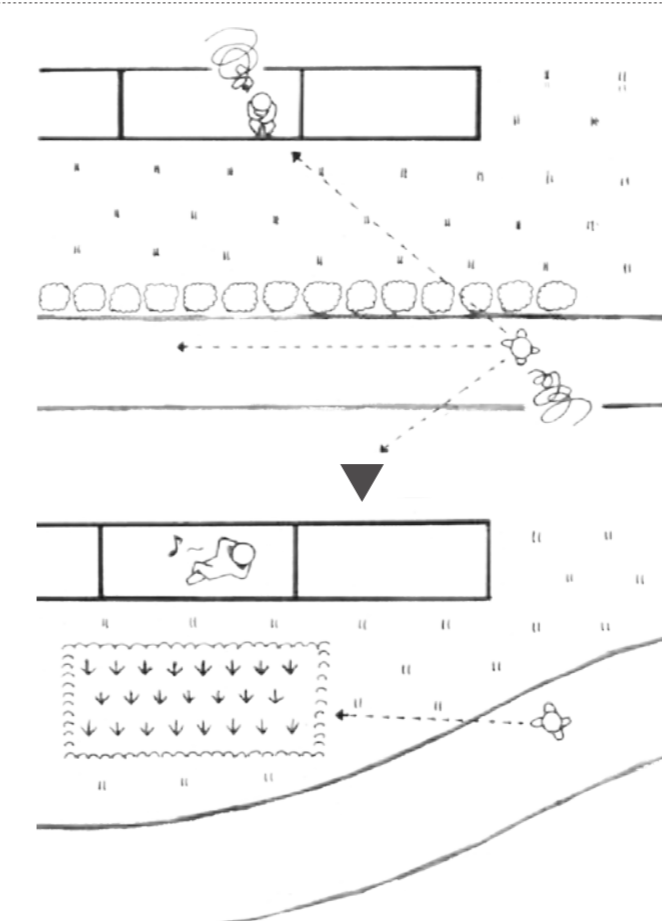
### 1. 場面展開が生まれる道路整備

道路は街区を分ける単なる境界線ではないと考えている。毎日人が通行し、お祭りなど非日常時には人の賑わいに溢れる多様な場面展開を見せる場所でもある。歩く人を導く団地の案内役として、豊かな場面展開を生むよう道路整備を行う。



### 3. 迎え入れる空間作り

視線を拒む広漠な芝生は居心地を悪くしてしまう。視線を認めオープンにしつつも、中間領域として半公共の「見られる場」を設え、私と公の空間を両立する。



最も交通量の多い通り沿いには雰囲気異なる2つの広場が広がることで、記憶に残る団地の通りが作られると考えている

比較的平坦な敷地であり、住棟と道と芝生が並行配置されているエリアの外部空間改善を提案する

ジャンボ公園付近は起伏に富み歩いて楽しい環境であったことから現在の状態を残す

ふちにわと世代毎の関係

- 働いている世代
- 子ども
- 高齢者世代



外部空間改善の考え方とI期整備地区の整備計画



通りで賑わいをつくる

I期整備地区の広場は、団地で暮らす方の思い出に残る歩道を、車道まで拡張して整備することを提案する。具体的な整備内容は車道から歩道までの舗装材の統一とプールの形を思わせるような長方形で縁取られた花壇の配置である。広場と通りを繋げることで空間的な広がり生まれるだけでなく、見通しがきくことで子どもの飛び出し等への安全性が向上し、さらには交通弱者への手助けになる関係も生まれることを想定している。

景観と環境に配慮した舗装材料

遮熱低熱平板を利用した道路と広場の一体的な整備とする。この舗装材の採用により、舗装綿の熱吸収を抑え路面温度の上昇や蓄熱と、夜間の熱放出の低減を実現する。本計画ではプールサイド面も一体的な計画としているため、この機能確保は重要である。

概算工事費

整地工事	1.0式	5,000,000
路面舗装工事	1.0式	25,000,000
植栽関係	1.0式	1,000,000
什器(ベンチ)	1.0式	1,000,000
現場諸経費	1.0式	500,000
管理費	1.0式	3,000,000
合計		35,500,000



参考事例：株式会社イワタ アースクルー25



お祭りなどの際には、車道を歩行者天国として利用することを考えている

空家活用に関する考え方

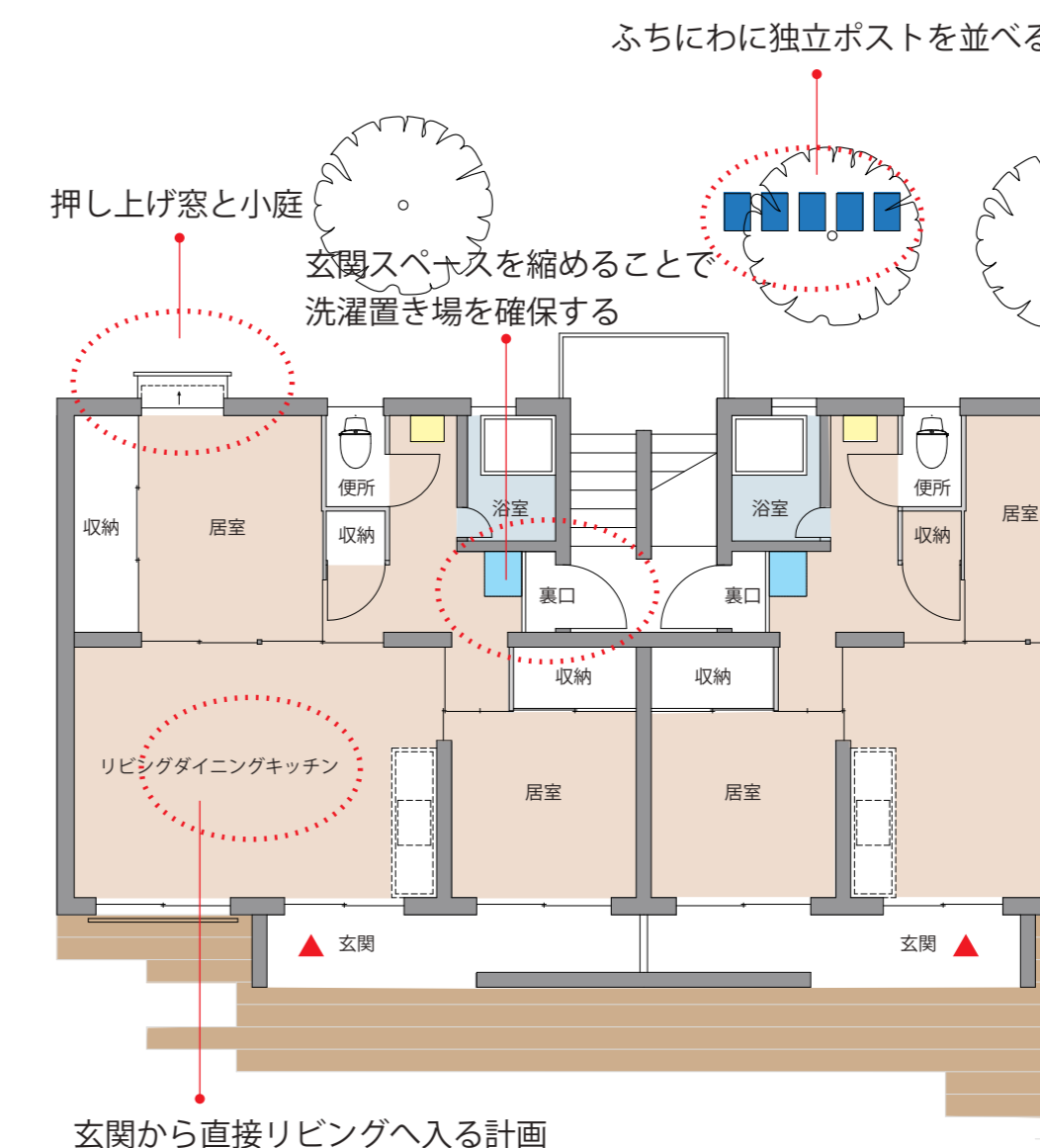


リビングアクセスと玄関周りの整理

子育ては一人で悩みを抱え込まないことが重要であると考えられています。そのため、室内ではなく外部との接続部分こそが再編すべき重要なポイントであると考えました。この考え方で現在の団地を見てみると、元々玄関周りが非常に狭い設計になっていることに加え、近年では洗濯機が無理やり手洗いの前に置かれ、竣工時よりも悪化したエントランス空間になっていると考えられます。そのため、本提案では人を迎入れることに考慮した計画を検討しました。また、玄関周り和水周りを整理することは介護者がいる世帯にも有効に働くと考えております。

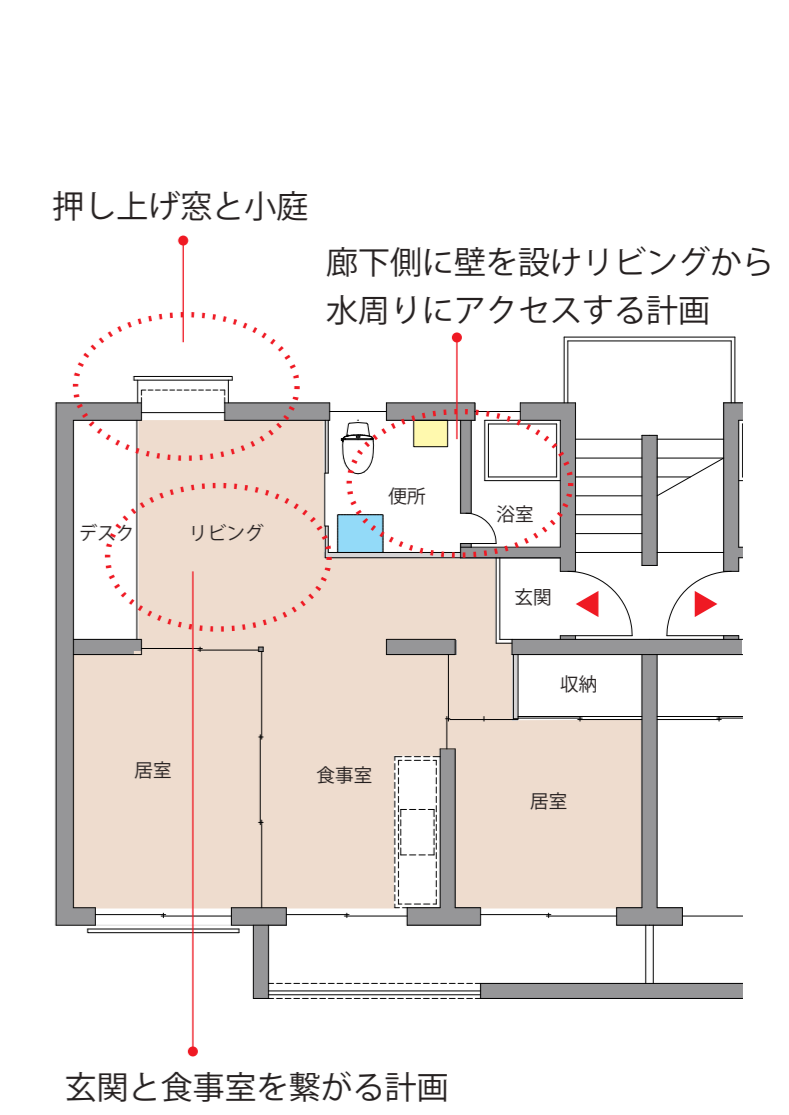


人を迎入れるであろうリビングが一番奥にある



玄関から直接リビングへ入る計画

1階の提案



玄関と食事を繋がる計画

2~5階の提案

